# 15 福地金属 株式会社

多様な冷間鍛造、プレス加工品

# 加工精度と技で広がる「冷間鍛造」の世界

## 平成25年度 補助事業と具体的成果

■ 事業テーマ

### サーボプレスによる精密加工で、小ロット・低コストの精密鍛造部品を生産

■ 事業概要

冷間鍛造は常温で金属に圧力をかけて成形する。常温のため成形時の寸法精度が高く、切削加工に比べて材料ロスも少ない。ただ、要求される製品形状が近年は複雑化。外周形状をトリミングで形づくる部品が増え、バリの除去など付随する手間も増加した。このため、ものづくり補助金でスライド速度が精密制御できるサーボプレス機（加圧能力２００t）を導入して、加工時の作業を改善した。導入済みのマシニングセンターとの連動で、小ロットや短納期対応の生産体制を整えた。

導入したサーボプレス機

| 課 題 | 取 組 | 成 果 |
|---|---|---|
| ●外周形状の複雑化と高強度材質の増加で、バリ取りなどの手間が増加。せん断技術の改善による作業工程の効率化。 | ●スライド速度の精密制御ができるサーボプレス機（加圧能力２００t）を導入。 | ●精密鍛造部品の形状加工、精密せん断加工が可能に。従来のプレス機では焼き付けが発生していた農機部品の加工がサーボプレス機によって解消。金型寿命も向上した。 |

## 業務内容

### 冷間鍛造の技術・ノウハウで、多様な要望に対応

福地金属株式会社は金属部品の冷間鍛造、プレス加工などを行う。常温で金属に圧力をかけて成形加工する冷間鍛造を主力とし、自動車部品や建機・農機部品、建築部品などを世に送り出している。創業は昭和36年。当初はプレス加工で家電部品などを手がけていたが、昭和40年に自転車のベアリング製造で、当時としてはまだ珍しい冷間鍛造技術に出会い、以来、50年以上にわたって冷間鍛造の技術やノウハウを培ってきた。さらにユーザーの多様な要望や厳格な品質追求に応え、精密鍛造への対応も強めている。

プレス加工の現場

### 少量・多品種・短納期で差別化戦略を追求

経営方針に少量・多品種・短納期を掲げる。それは国内市場が縮小していくだけに「他と同じことをしてはいけない」という、福地守社長が進める他社との差別化戦略を示したものでもある。そこには平成７、８年当時、円高要因による企業の海外移転加速で、試作品の受注依頼など仕事確保に奔走し難局を乗り越えてきた福地社長の思いが込められている。短納期化に向けては金型パーツの内製化を目的に平成24年度の補助金でマシニングセンター導入。また、今回のサーボプレスの導入により、従来のプレス機では溝部での焼き付き、寸法のばらつきで困難だった農機部品の加工課題が解消するなど、その効果の一端を示している。

加工課題を解決した農機部品

## 強みとビジョン

### 金型提供、最短２日

冷間鍛造のモノづくりに従事してきた中で、同社は顧客からのさまざまな相談や要望に応え、それを形にすることを大事にしてきた。それには技術力とともに、強みとする短納期での対応力も寄与している。金型は最短２日での提供が可能。自社にある製作途中の金型から目的に近いものを使って金型事業者に発注するという、納期短縮の工夫も行っている。生産施設に関しては、隣接する他社工場の移転を機に用地を取得し、平成30年に第一工場（本社）を増築。今後の設備自動化も視野に生産施設の拡大を図った。

### 冷間鍛造技術を極める

福地社長は今後について「冷間鍛造技術をさらに極め、今の少量・多品種・短納期を磨き上げていく必要がある」と話す。受注機会の創出・拡大には、それぞれに強みを持つモノづくり企業の連携が重要になるとみるからだ。このため、若手社員の育成に注力する。ただ、「これからの時代に、私の話は役に立たない」と、若手のリーダーを軸にした20―30歳代の社員で勉強会などを実施している。ホームページの更新なども担い、顧客づくりも意識し、取り組んでいる。

精度、形状に応える冷間鍛造品

**一緒に考え、最良のモノを「形」にします**

冷間鍛造、プレス加工で数多くの製品を仕上げてきました。同時に数多くのご相談、ご要望にもお応えしてきました。お客さまと一緒に考え、最良のモノを「形」にしています。その姿勢は今後も変わりません。当社の強みとする少量・多品種・短納期もお役に立てると思います。金属部品での困りごとは、お声がけ下さい。

●社　名　福地金属 株式会社
●代表者　代表取締役　福地 守
●住　所　〒547-0001
大阪市平野区加美北3-6-21
●ＴＥＬ　06-6791-7176　●ＦＡＸ　06-6794-4906
●資本金　10,000千円　●従業員　15名
<<< 代表取締役　福地 守

http://www.fukuchi-kinzoku.jp/


●主な取引先　自動車部品メーカー、金属部品加工事業者など
●主な保有設備　サーボプレス機、冷間鍛造プレス機、板金プレス機、マシニングセンター、汎用旋盤、丸鋸切断機、自動溶接ロボット他
●主力製品　自動車部品、建機・農機部品、建築部品

短納期　企画力　小ロットOK　量産OK　試作OK　連携力

**REPORTER'S EYE**

モノづくり中小企業にとって、今後は「良い仕事仲間をつくっていくことが大事」と福地守社長は言う。それは強みを生かし合える企業とつながっていくこと。平成７、８年当時、福地社長は円高に伴う企業の海外移転の加速から仕事確保に奔走し、試作受注などの差別化が、今の自社の強みに生きている。強みというものが難題への挑戦の「証」とすれば、これからの世は、その証を知らしめる情報発信力も重要になる、と感じた。